

生きる場 汚すのか



汚染水海洋放出決定 怒りの声

政府が13日、東京電力福島第1原発で発生する放射能汚染水を処理した後の高濃度のトリチウム（3重水素）を含む汚染水（アルプス処理水）の海洋放出方針を決定したことに対し、抗議や撤回を求める声が上がっています。

漁師が永遠に使う海だ

福島・新地町の漁師
小野春雄さん

勝手な政府の決定に、はらわたが煮えくり返る思いです。コロナで苦しんでいるこ

ろに汚染水が重なり、耐えられない。
菅首相の会見を見た
が、作文を読んでいる
だけで漁民への思いは
感じられなかった。所
信表明演説で言った

「国民に寄り添う」という姿勢もない。今も福島の水が隣県より2〜5割安い理由を考えてほしい。
政府は漁民の理解を得ず海洋放出はしない

と約束していたのに、
実際はコロナ禍の去年



シラウオ漁で使う網の手入れをする小野春雄さん（10日、福島県新地町）

議論もされていない。15歳で船に乗って54年間漁師をやっている、福島の水は私たちの仕事場であり生きる場です。これからも永遠に使い続ける海です。それを汚して、お金を補償するからいいとはならない。
原発事故から10年、われわれがどんな思いで苦勞して苦勞して魚を取り続けているのか、何も理解せず「福島復興のため」なんて軽々しく言うてほしくない。

反原連が緊急抗議

官邸前

絶対反対「海を汚すな」「漁業を守れ」「漁連や地元の声を聞け」「勝手に決めるな」と訴えました。
（反原連）は13日、菅義偉政権が東京電力福島第1原発事故の放射能汚染水を海洋放出する方針を決定したことに対し緊急抗議を官邸前で行いました。反原連は活動休止中でしたが、菅内閣の暴挙に対して緊急行動を呼びかけました。参加者は、ドラムのリズムに合わせ「海洋放出、

と国の方針を押し付け、県民と意見を交わすものではありません」と批判。「もっと丁寧にならねば県民・国民の声を聞いてほしい。代替案も出されています。国の責任で国民的な議論をするべきです」と語りました。

「海洋放出絶対反対」「国民の声をちゃんと聞け」とコールする人たち（13日、官邸前）

政府 地元の反対無視し決定

原発汚染水放出約束をほご

政府は13日、関係閣僚会議を開き、東京電力福島第1原発で発生する放射能汚染水を処理した後の高濃度のトリチウム（3重水素）を含む汚染水（アルプス処理水）の海洋放出方針を決定しました。今回の決定は、政府と東電が海洋放出に強く反対する漁業関係者に「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と約束したことを覆し、福島県内7割の自治体が反対・慎重対応を求める意見書を採択したことなども無視する舉措です。↓関連6の6面



汚染水の海洋放出決定に抗議し、撤回を求めよう県に迫る行動参加者＝13日、福島市

「海洋放出が進めば環境も生業もつぶされ、福島県の漁業は終わってしまう」と避難者。福島市の女性らは「健康に影響がある」と訴えています。

決定した基本方針によると、海洋放出は、トリチウムを国の定める基準以下に薄めてから放出するとしていますが、放出されるトリチウムの総量が変化するわけではなく、漁業などへの影響ははかりきれません。

また、風評被害が生じた場合、政府が東電に期間や地域、業種を限定せずに賠償するよう指導すると明記。しかし、本格操業に向かっていると訴えています。

「市民会議」のメンバーは、県に海洋放出を拒否するよう求め、県議会や会派へ要請行動も。同会議の武藤知子氏（87）は「原発事故被害者の県民や国民の十分な理解が得られないのに、強行したことに怒っている。内閣府知事は政府の舉措を止めてほしい」と力を込めました。

復興共同センターの斎藤富春代表委員は、「福島切り捨てが極まった状況だ。理不尽な政府の対応に引き続き大きな運動を進めていく」と述べました。

日本共産党の神山悦子県議は同会合の求めに応じて、県政の状況を報告し、「内閣府知事は県民の声を国に撤回を迫るべきだ」と訴えました。

撤回せよ 怒る福島

「市民会議」のメンバーは、県に海洋放出を拒否するよう求め、県議会や会派へ要請行動も。同会議の武藤知子氏（87）は「原発事故被害者の県民や国民の十分な理解が得られないのに、強行したことに怒っている。内閣府知事は政府の舉措を止めてほしい」と力を込めました。

復興共同センターの斎藤富春代表委員は、「福島切り捨てが極まった状況だ。理不尽な政府の対応に引き続き大きな運動を進めていく」と述べました。

日本共産党の神山悦子県議は同会合の求めに応じて、県政の状況を報告し、「内閣府知事は県民の声を国に撤回を迫るべきだ」と訴えました。

全漁連が 抗議声明

全国漁業協同組合連合会は13日、政府が東京電力福島第1原発で発生する高濃度のトリチウム（3重水素）を含む汚染水（アルプス処理水）を海洋放出する方針を決定したことについて「到底容認できるものではない」とする抗議声明を発表しました。

声明は岸宏会長名で公表。その中で、岸会長らが7日、菅首相と会談し「反対の考えはいささかも変わらない」と申し入れたにもかかわらず、「本方針が決定されたことは極めて遺憾」と強調

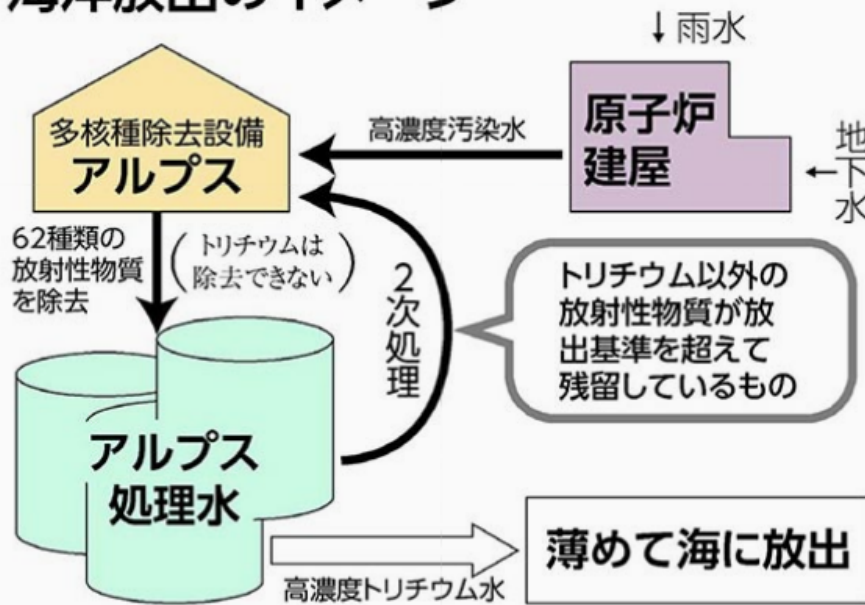
漁業者の思い踏みにじった

さらに、政府がこれまで「アルプス処理水について関係者の理解なしにはいかなる処分も行わないことを明確に回答していた」と指摘。「なぜ関係する漁業者の理解を得ることなく、この回答を覆したのか、福島県のみならず全国の漁業者の思いを踏みにじる行為である」ときびしく批判しました。

声明ではこのほか、トリチウムの半減期（12・3年）を念頭に敷地内ですらなるタンク増設による保管継続や新たな処理・保管方法の検討など、あらゆる可能性について国の責任で継続的に検討・実施していくことなどを求めました。

汚染水 アルプス処理7割が未完了

海洋放出のイメージ



菅義偉政権が決定した、東京電力福島第1原発事故で出た高濃度のトリチウム（3重水素）を含む汚染水（アルプス処理水）を薄めて海に放出する方針。政府は、具体的な方法について示しました。

同原発では、原子炉建屋に地下水や雨水が流入すること、放射能汚染水が増え続けている。この高濃度の汚染水を多核種除去設備「アルプス」で処理した後に残るのがアルプス処理水です。

アルプスは、セシウムやストロンチウムなど62種類の放射性物質を国の放出基準（告示濃度限度）未満に低減できるとされますが、トリチウムや炭素14など除去で

きない放射性物質もありま
す。

敷地内のタンクにためた処理後の水は約125万トで、現在も1日140ト規模のペースで増えています。政府・東電は、設置済みのタンク（137万ト分）が2022年秋ごろにも満杯になると見積もっていますが、タンク増設計画を示さず、なにより崩壊的に放出を決定しました。

タンクの処理水のトリチウム濃度は、1リットルあたり数十万〜数百万ベクレル（平均濃度は同73万ベクレル）。国内の原発では通常運転で発生したトリチウム水を環境中に放出しています。その際の国の基準（同6万ベクレル）を大きく超えるものもあります。

事故原発である福島第1では他の放射線の影響も考慮する必要がありますが、現在、敷地内

の地下水をくみ上げて海に放出する際には、同1500ベクレルを基準に運用しています。今回の政府方針では、処理水を薄める際、これと同じ基準で運用するとしています。これは世界保健機関（WHO）の飲料水基準（同1万ベクレル）の7分の1の濃度です。

タンク内のトリチウムの総量は現時点で約900兆ベクレル。事故前の福島第1での年間放出量は基準（管理目標値）が22兆ベクレル、実績が2兆ベクレル規模でした。今回の方針では放出の総量を「年間22兆ベクレルを下回る水準」としました。

一方、アルプスで処理した水のうち約7割は処理が未完了で、トリチウム以外の放射性物質濃度が放出基準を超えて残留していることが判明しています。これは基準を下回るまで2次処理すると政府は説明しています。

汚染水海洋放出 何が問題か

政府が漁業関係者をはじめ地元の強い反対の声を無視して、東京電力福島第1原発で増え続ける放射能汚染水を処理した後の高濃度のトリチウム(3重水素)を含む汚染水の海洋放出方針を決定しました。日本共産党国会議員団福島チーム責任者の高橋千鶴子衆院議員に何が問題なのか、聞きました。

(聞き手・三木利博 写真・佐藤研一)



高橋千鶴子衆院議員に聞く

「薄めて流せ」言うが…

500 倍の希釈でも
500 倍流せば同じ

「薄めて海に流せばいい」という政府に対し、海洋放出を決定する前日の国会で、放出反対の立場から菅義偉首相に質問し、「海洋放出しても40年かかる。それだけの時間があれば、(放射性物質が半分に減る半減期が約12年の)トリチウムはもっと減衰し、新たな道も決まる」と指摘しましたね。

高橋 政府の中期ロードマップで「復興と廃炉の両立」大原則に、汚染水対策は廃炉一体としています。そして福島第1原発の廃止措置は終了まで30〜40年としています。仮に海洋放出したら何年かかるのか、海洋放出は仕方ないとか、海洋放出すれば目の前からタンク、たった数年でなくなると考え人も多い。でも40年、タンクはなくならないのです。

放出量では、福島第1原発の事故前のトリチウムの年間放出管理基準が22兆ベクレル。今までの総量は860兆ベクレルで、単純計算で約40年分です。東電の文脈(ふはさみ)は、誠に副社長に、現在のタンクがなくなるのに何年かかるかとたずねると、福島第1原発の廃止措置に要する30〜40年を使うと答弁しました。私は、そのくらい時間がかかるのだったら、急いで放出する必要はないと指摘しました。しかも、放出するトリチウム濃度を1兆当たり1500ベクレルの水準に下げるとというのが政府の方針です。この値は、原子炉建屋への汚染水の流入量の増大を抑えるとして設置された建屋周辺の井戸(サドレン)からくみ上げた地下水の放出を認めた時(2015年)の政治決着で決められたものです。仮に容量約1千トンのタンク1基分の処理後の水を薄めるのに500基分の海水が必要なのです。

「タンクが満杯になる」「燃料デブリ800トン 具体策これから」
政府・東電はタンクの設置場所が足りない、22年秋ごろにはタンクが満杯になるから、放出はやむを得ないといっています。
高橋 タンクの置き場が満杯になるからと、そこだけが強調されていますが、資源エネルギー庁や東電は国会で、炉心溶融で溶け落ちた燃料デブリなどの一時保管施設や廃棄物の保管施設を建設するためのスペースが必要だといっています。そのためスペースを空けることが大きな理由です。でも、総量800ト程度といわれる燃料デブリは極めて高線量で、取り出しができるのかわかっていません。いったい取り出した後の置き場所などつくれるのかと東電に聞くと、「具体的な検討はこれから」といっています。

結局、これまでの政府・東電の議論は「放出ありき」で説得しようとして、漁業関係者をはじめ国民の納得を得られなかったということではないでしょうか。

か。トリチウムは国内外の原発からも放出されていると強調していますが、そもそもトリチウムの総量規制がなく、原発ごとに基準が違うことや、「京」位のトリチウムを放出する再処理工場には基準さえないこと指摘してきました。
事故を起こした原子炉を通じた汚染水にはトリチウム以外62種の放射性物質があり、トリチウムの濃度や組成はタンクによって均一ではなく、通常の発のものとは同一ではありません。現在タンク約1000基7割に未処理のまま残っているトリチウム以外の放射性物質2次処理して基準を下回るようにするといっています。以上ことから海洋に放出すること「汚染水」ではないと政府はいっていますが、最後まで監視する必要があるのは言うまでもありません。

流さぬ立場で
知見集めて

問題の解決にはどうすればいいですか。

高橋 何より海に流さない立場に立って、科学的知見を集めて対応することで、新たな道も決まると思います。40年の間にタンクも建て替えていくとはいかないこともあるでしょう。その際に大型のタンクにするとか。トリチウムの分離技術の開発なども時間をかけられます。
国会では漁民の声を代弁していました。

高橋 2月に宮城県に近い新地町沖でクロノイという魚から国基準の5倍のセシウムが見つかり、驚きました。事故から10年にもなるのに。福島県の漁師は原因を突き止めてほしいと言っています。被害の実態が正確に知られていないことがあるのではないのでしょうか。
菅義偉首相は、福島復興なくして日本の復興なしといっています。私は国会で、漁師を助けるという息子のいる漁師の言葉を伝え、「若い人たちが引き継いでいなければ、復興なんてありえない。若い人に漁師を続けてほしいと言えませんか」と求めたのに、首相から答えは最後までありませんでした。船を出してこそ漁師です。賠償では後継ぎはできません。政治の転換を強く思います。